

ひびき

教育目標「なかよく かしこく たくましく」
——一人一人を大切にする「風通し」のよい学校——
多治見市立共栄小学校 R6.1.31

「大谷翔平選手のグローブ寄付」から学ぶべきこと

共栄小学校長 加藤 隆史

「本当に届いてびっくりした。憧れの選手なので最高です！」
これは1月23日の岐阜新聞で紹介された本校の6年児童が大谷選手のグローブに触れたときの感想です。

前日の22日、朝の会のオンライン放送で大谷選手からのグローブが共栄小にも届いたことを紹介し、休み時間に校長室前に展示することを全校児童に伝えました。その日の休み時間には、校長室前に多くの児童がやってきました。グローブを眺めたり、触れたり、はめてみたりしている様子を新聞社や市の広報課の方が取材にみえたのです(3月の広報誌や市のHPにも掲載されるそうです)。



ニュースや新聞で報じられる全国各地の小学校の様子やグローブを手にとり嬉しそうにみつける子どもたちをみていると、今回の大谷選手のグローブの寄付から私たち大人も、子どもたちを育てていくうえで学ぶべきことがいくつもあると感じました。

一つ目は、「本物との出会わせることの大切さ」です。

「大谷選手が使っているグローブと同じかたちだ!」「大谷選手のサインがちゃんといっているね!」と嬉しそうな顔でグローブを見つめたり、実際に触れたりする子どもたちの目はキラキラと輝いていました。写真や映像も効果的ではあるけれど、本物との出会いは子どもたちの心を動かすのだと感じました。

二つ目は、「目に見えないものを見えるように工夫することの大切さ」です。

「私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルになることを望んでいます。」大谷選手は手紙の中で、このように語っています。「夢をもとう!」「勇気は大切だ!」と言葉だけで伝えようとしても、子どもたちには、なかなか伝わるものではありません。しかし、大谷選手は、その「夢」や「勇気」をグローブという「目に見える」もので伝えようとしています。きっと子どもたちは、その大切さをグローブを通して実感することでしょう。

三つ目は「思いや願いを積極的に発信することの大切さ」です。



このグローブの寄付を通して、「夢を与えたい」「勇気づけたい」そして、「野球しようぜ!」のメッセージが全国の小学生に発信されました。そのメッセージはグローブを見たり触れたりすることで、野球を知らない児童やグローブのはめ方さえ分からない子どもたちにも少なからず伝わったことでしょう。私たちも、子どもたちに積極的に、そして手立てを工夫して思いや願いを発信し続けていくことが必要だと学ばされました。

今、大谷選手のグローブは各教室を回っています。その後も「夢を与え、勇気づけるシンボル」として、大切に使っていかれたらと思います。